

に在り茫々たる大荒原道路驛站共に乏しく加ふるに氣候風土甚殊異なり、決死の勇あるに非ざれば到底踏査し得べからず、然れども此地域たる英露兩領土の間に介在し他日の禍機を伏する所焉んぞ踏査困難の故を以て等閑に附すべけんや
本書素と些々たる一小冊、敢て西部支那を知るに足るとは云はす。唯、幾分の参考に供せらるるを得ば幸甚。希くは有志の士之を西部支那研究の楷梯と爲し益、其歩を進め以て東亞保全の大計に遺憾あること無からしめよ。

明治四十一年十二月

著 者 識